

アフターサービスについて

- 保証書
保証書は、必ず所定事項（ご購入店名、ご購入日）を記入し、記載内容をお確かめの上、大切に保存してください。
- 保証期間
保証期間は、お買い上げの日より1年間です。正常なご使用状態でこの期間内に故障が生じた場合、保証書の規定に従って修理いたします。お手数ですが製品に保証書を添えて、お買い上げの販売店または当社サービスセンターにご相談ください。
- 保証期間経過後の修理
保証期間が過ぎた後の修理については、お買い上げの販売店または当社サービスセンターにご相談ください。修理によって機能が維持できる場合、お客様のご要望により有料で修理いたします。
- アフターサービス
アフターサービスについてご不明な点は、ご遠慮なくお買い上げの販売店または当社サービスセンターにご相談ください。

●商品に関するお問い合わせは
お客様相談室をご利用ください。

電話 (03) 3477-5335

●アフターサービスのお問い合わせは

お買い上げの販売店、または最寄りのケンウッド・

サービスセンターにご相談ください。

(別紙“全国サービス網”をご参照ください。)

KENWOOD

株式会社ケンウッド

本社：東京都渋谷区道玄坂1-14-6 〒150

KENWOOD

特定小電力トランシーバー

UBZ-LG9

UBZ-LG11

取扱説明書

お買い上げいただきましてありがとうございます。
ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みのうえ、
正しくお使いください。

お読みになった後は、いつでも見られる場所に保
存してください。

本機は日本国内専用のモデルですので、外国で使
用することはできません。

株式会社ケンウッド

KENWOOD CORPORATION

© B62-0792-00

09 08 07 06 05 04 03 02 01 00

目次

| | |
|-------------|---|
| 安全上のご注意 | 4 |
| ご使用にあたっての注意 | 9 |

準備編

| | |
|--------------|----|
| 梱包品の確認 | 9 |
| ご使用前の準備 | 10 |
| 電池の入れ方 | 10 |
| 電池について | 11 |
| アンテナの立て方 | 12 |
| ベルトフックの取り付け方 | 12 |

基本編

| | |
|----------------|----|
| 各部の名称 | 13 |
| 本体 | 13 |
| 表示部 | 14 |
| 操作バンドの選びかた | 15 |
| 基本的な通話のしかた | 16 |
| 通話モードの設定 | 19 |
| グループ通話モードの設定 | 19 |
| スクランブル通話モードの設定 | 21 |

使いこなし編

| | |
|----------------|----|
| 便利な機能 | 23 |
| オートチャンネルセレクト機能 | 23 |
| メニューによる機能の設定 | 25 |
| メニュー機能一覧表 | 26 |

| | |
|------------------------|----|
| スピーカー出力のON/OFF | 27 |
| ビープ音のON/OFF | 28 |
| 照明ランプ常時点灯のON/OFF | 29 |
| APO (オートパワーオフ) のON/OFF | 30 |
| 常時モニターのON/OFF | 32 |
| バンド選択のON/OFF | 33 |
| こんな事もできます | 34 |
| キーロックする (誤操作防止) | 34 |
| 相手をコールトーンで呼び出す | 34 |
| コールトーンの音色を変更する | 35 |
| 一時モニター | 36 |
| こんな機能もあります | 37 |
| FMラジオを聞く | 38 |
| FMラジオの周波数を登録する | 38 |
| ラジオ局を受信する | 40 |
| A.B.C (オートバンドチェンジ) 機能 | 41 |
| 相手からの呼び出しを待つ | 41 |
| 待ち合わせの相手を呼び出す | 42 |

保守編

| | |
|--------------|-----|
| 故障かなと思ったら | 43 |
| オールリセット | 43 |
| 症状による確認項目 | 44 |
| オプション | 45 |
| オプションの使い方 | 46 |
| 定格 | 47 |
| アフターサービスについて | 裏表紙 |

安全上のご注意

■絵表示について

この「安全上のご注意」には、お使いになるかたや他の人への危害と財産の損害を未然に防ぎ、安全に正しくお使いいただくために、重要な内容を記載しています。ご使用の際には、次の内容（表示と意味）をよく理解してから本文をお読みになり、記載事項をお守りください。

⚠ 危険

誤った取扱をすると、人が死亡または重傷を負う危険性が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。

⚠ 警告

誤った取扱をすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

⚠ 注意

誤った取扱をすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例



注意（危険・警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。図の近くに具体的な注意内容が描かれています。



禁止の行為であることを告げるものです。図の近くに具体的な禁止内容が描かれています。



行為を強制したり指示する内容を告げるものです。図の近くに具体的な指示内容（左図の場合はACアダプターをACコンセントから抜け）が描かれています。

⚠ 危険

■電池パックの取扱について

電池パックは次のことを守らないと、けがや電池を漏液、発火、発熱、破裂させる原因となりますので、下記のことを必ずお守りください。

- 充電温度範囲は、5℃～40℃です。この温度範囲以外では充電しないでください。
- 専用充電器以外では充電しないでください。
- 本機以外の機器に取付けしないでください。
- 火の中に投入したり、加熱したり、ハンダ付けしないでください。
- 端子を針金などの金属類でショートさせないでください。また、ネックレスやヘアピンなどと一緒に持ち運んだり、保管しないでください。
- 液が目に入ったときは、失明のおそれがありますので、こすらずに、すぐにきれいな水で洗った後、直ちに医師の治療を受けてください。



- 液が皮膚や衣服に付着したときは、皮膚に障害を起こすおそれがありますので、すぐにきれいな水で洗い流してください。



⚠ 警告

■使用環境・条件

- 交通安全上、運転しながら交信するのはおやめください。
- 電子機器（特に医療機器）の近くでは使用しないでください。電波障害により機器の故障・誤動作の原因となります。
- 航空機内、空港敷地内、新幹線車両内、中継局周辺では、絶対に使用しないでください。（電源も入れないでください。）運行の安全や無線局の運用、放送の受信に支障をきたすおそれがあります。



●この製品を使用できるのは、日本国内のみです。外国では使用できません。



■充電器の取扱について

●AC100V以外の電圧で使用しないでください。火災・感電・故障の原因となります。



●タコ足配線はしないでください。過熱・発火の原因となります。



●濡れた手でACコードのプラグに触れたり、電源コードを抜き差ししないでください。感電の原因となります。



●電源プラグはACコンセントに確実に差し込んでください。電源プラグの刃に金属などが触れると、火災・感電・故障の原因となります。



●電源プラグの刃にほこりが付着したまま使用しないでください。ショートや過熱により火災や感電の原因になります。



■使用方法について

●この製品は布や布団で覆ったりしないでください。熱がこもり、ケースが変形したり、火災の原因となります。直射日光を避けて風通しの良い状態でご使用ください。



●イヤホンを使用する場合、電源を入れる前に音量を下げてください。聴力障害の原因になることがあります。



●この製品に水をかけたり、水が入ったり、ぬらさないよう、ご注意ください。火災・感電・故障の原因となります。



●水などで濡れやすい場所（風呂場など）では使用しないでください。火災・感電・故障の原因となります。



●この製品の近くに小さな金属物や水などの入った容器を置かないでください。こぼれたり、中に入った場合、火災・感電・故障の原因となります。



●この製品は調整済みです。分解・改造して使用しないでください。火災・感電・故障の原因となります。



■異常時の処置について

●内部に水や異物が入った場合や、落としたり、ケースを破損した場合、または異常な音が出たり、煙が出たり、変な臭いがあるなどの、異常な状態になった場合は、そのまま使用すると、火災・感電・故障の原因となります。



すぐに電源スイッチを切り、電池パックを外し、充電中はプラグをACコンセントから抜き、煙は出なくなるのを確認してから、お買い上げの販売店または当社サービスセンターにご連絡ください。

お客様による修理は、危険ですから絶対におやめください。

●雷が鳴り出したら、安全のため早めに電源スイッチを切り、充電中はプラグをACコンセントから抜いて、ご使用をおひかえください。



■保守・点検

●この製品のケースは開けないでください。感電・けが・故障の原因となります。内部の点検・修理は、お買い上げの販売店または当社サービスセンターにご依頼ください。



⚠ 注意

■使用環境・条件

●テレビやラジオの近くで使用しないでください。電波障害を与えたり、受けたりすることがあります。



●直射日光が当たる場所や車のヒーターの吹き出し口など、異常に温度が高くなる場所には置かないでください。内部の温度が上がり、ケースや部品が変形・変色したり、火災の原因となることがあります。



●湿気の多い場所、ほこりの多い場所、風通しの悪い場所には置かないでください。火災・感電・故障の原因となることがあります。



●ぐらついた台の上や傾いた所、振動の多い場所には置かないでください。落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。



- 調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるような場所には置かないでください。火災・感電・故障の原因となることがあります。



■充電器の取り扱いについて

- 充電器のコードを熱器具に近づけないでください。コードの被服が溶けて火災・感電・故障の原因となることがあります。
- 充電器のACコードを抜くときは、必ずプラグを持ってください。コードを引っばると、コードが傷つき、火災・感電・故障の原因となることがあります。



■使用方法について

- アンテナを誤って目にささないようにしてください。
- SP・MIC端子にはオプションのスピーカーマイク以外は接続しないでください。故障の原因となることがあります。
- 旅行などで長期間使わないときは、電源スイッチを切り、電池パックを外して、充電器はプラグをACコンセントから抜いてください。



■保守・点検

- お手入れの際は、電源スイッチを切り、電池パックを外して、充電器はプラグをACコンセントから抜いてください。
- 水滴が付いたら、乾いた布でふき取ってください。汚れのひどいときは、水で薄めた中性洗剤をご使用ください。シンナーやベンジンは使用しないでください。



ご使用にあたっての注意

- 次の機種との組み合わせによる通話できませんのでご注意ください。
 - 1.UBZ-LG9 ←×→ UBZ-B5, B7, B700, BA5, LF11, LG11
 - 2.UBZ-LG11 ←×→ UBZ-7, 17, L3, L5, LA5, LA7, LA7R, LF9, LG9
- 通話のできる距離は地形や環境によって大きく異なりますが、目安は次のとおりです。
 - ・市街地で100～200m
 - ・郊外で1～2km
- 建築物が多い地域や、自動車などの金属物体の周囲では、通信距離が短くなります。
- 本機はゴムキャップ密閉時JIS保護等級2防滴「形相当の仕様ですから多少の水滴がかかっても使用できます。但し雨の中での使用や直接水につけると故障の原因となりますのでご注意ください。また、水分が付いた時は直ちに乾布でよくふき取ってください。
- SP/MIC端子のゴムキャップを外しているときや、SP/MIC端子にオプションのスピーカーマイクロホン等が接続されているときは、防滴にはなりません。
- 激しい振動、雨、粉塵がある環境では使用しないでください。
- 電波妨害にご注意ください
- テレビ、ラジオ、パソコンなどの電子機器の近くで使用すると、電波妨害を与えたり、受けたりすることがあります。これらの機器からは離れてお使いください。

電波法に関するご注意

- 本機の裏面の技術基準適合証明ラベルをはがさないでください。使用できなくなります。
- 本機を分解したり、改造して使用することは電波法により禁止されています。
- 他人の通信を聞いて、これを漏らしたり、窃用することは電波法により禁止されています。
- 無線機の使用が禁止されている所があります。航空機内、空港敷地内、新幹線車両内などでは使用しないでください。

梱包品の確認

梱包品がすべて揃っていることを確認してください。

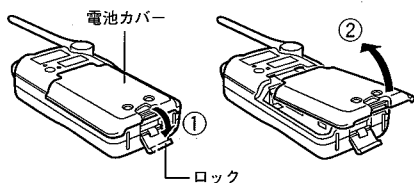
- ・本体・・・1
- ・イヤホン・・・1
- ・ベルトフック・・・1
- ・保証書・・・1
- ・サービス一覧表・・・1
- ・取扱説明書（本書）・・・1

ご使用前の準備

●電池の入れ方

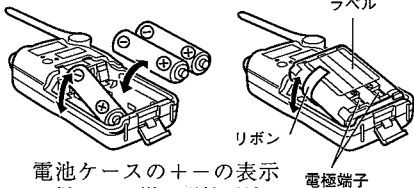
ベルトフックは、電池カバーを開ける前に、はずしてください。

1. ロックを外し、電池カバーを開けます。



電池カバーを指で押しなが
ら、コインを使ってロッ
クを外します。

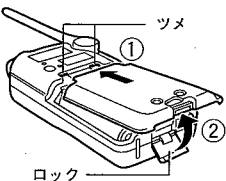
2. 電池を十側から入れます。



電池ケースの＋の表示
に従って、単3形乾電池3
本を十側から入れます。

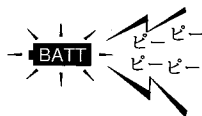
オプションのバッテリー
パックの場合も十側から
入れます。
バッテリーパック UPB-1
は、ラベルの極性表示＋
を電池ケースの表示に合
わせて、十側から入れて
ください。

3. 電池カバーを閉めます。



ツメを合わせて電池カバーを開
め、ロックをかけます。

●電池の交換時期について
警告音がピーピーピーと4回
鳴り、「BATT」表示が点滅したら
電池が消耗しています。早めに電
源を切り、電池を交換してくださ
い。電池が消耗していると電源を
入れるたびに警告音が鳴ります。



●電池について

アルカリ乾電池 (単3形3本:4.5V)、または別売の専用バッテリーパッ
ク (UPB-1:DC3.6V) のご使用をおすすめします。

電池の使用可能時間のめやす

| 電池の種類 | 使用可能時間 | |
|------------------|--------|--------|
| | 無線機バンド | ラジオバンド |
| アルカリ乾電池 | 約60時間 | 約15時間 |
| バッテリーパック (UPB-1) | 約24時間 | 約8時間 |

測定条件:

無線機バンド:送信6秒、受信6秒、待ち受け48秒を繰り返したとき。

ラジオバンド:連続して受信した場合。



ご使用済のニカドバッテリーは、貴重な資源です。
再利用しますので、廃棄しないでリサイクル
にご協力お願いいたします。

●乾電池に関する注意

乾電池は、使い方を誤ると破裂や破損、液もれの原因となります。必ず
次の注意事項を必ずお守りください。

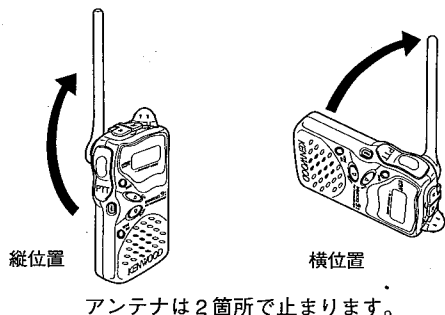
1. 使用した乾電池と、新しい乾電池を混ぜて使用しない。
2. 3本とも同じ種類の乾電池を使用する。
3. 乾電池は充電しない。
4. 火の中へ投げ込まない。
5. ショート (短絡)、分解、加熱しない。
6. 長期間使用しないときは、乾電池を電池ケースから取り出しておく。

●市販の単3形充電式電池について

単3形充電式電池は使用しないでください。端子や電池被覆がショート
して発熱し、電池ケースや本体が壊れることがあります。

■アンテナの立て方

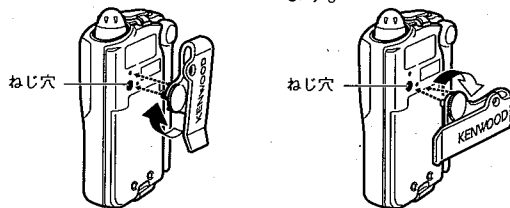
無線機として使用する時は、必ずアンテナを垂直に立ててご使用ください。(ラジオとして使用する場合はイヤホンコードがアンテナになります。必ず付属のイヤホンをSP端子に接続してください。)



■ベルトフックの取り付け方

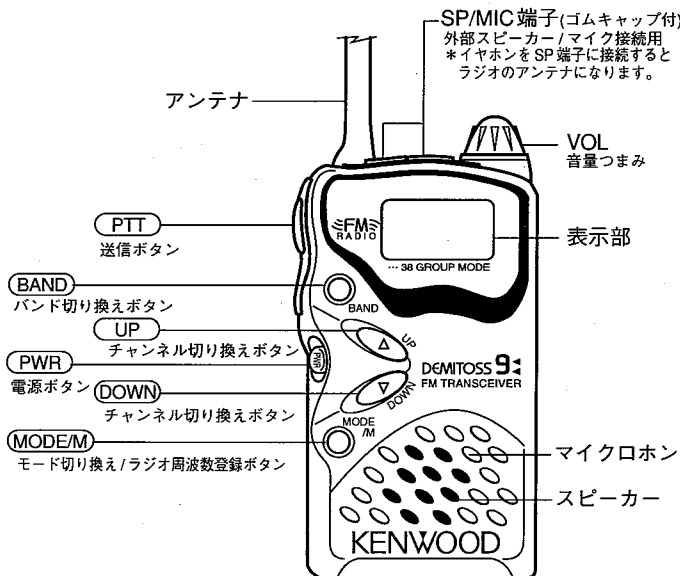
ベルトフックはタテ・ヨコどちら向きでも止められます。

1. ベルトフックの裏のねじを本体のねじ穴に合わせて締めます。
2. タテ・ヨコの止め位置を変える時は、ねじをゆるめてベルトフックを90度回してから締めます。



各部の名称

■本体

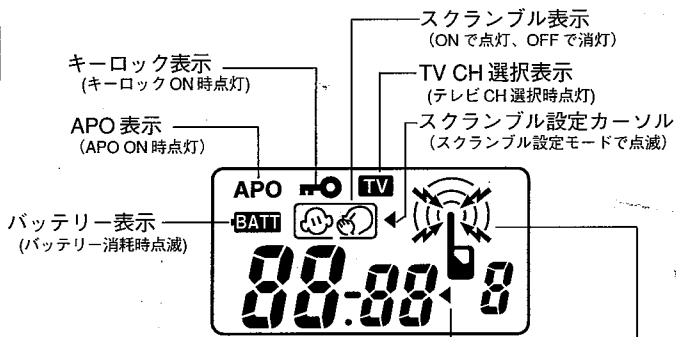


(UBZ-LG9/LG11の各部名称は同じです)

(注意)

- は操作で使用するボタンの名称です。
- UP/DOWN はグループ番号、スクランブル機能、メニュー機能、ラジオ周波数の選択にも使います。

■表示部



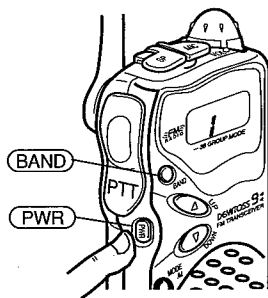
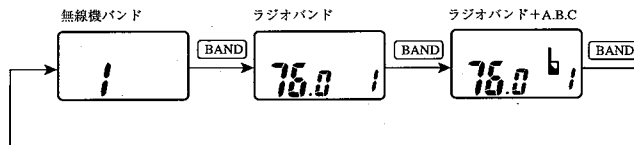
| | | |
|---------------------------|---------------------|---------------------|
| A.B.C表示 (A.B.C機能ON時点灯) | BUSY表示 (信号受信時点灯) | ON AIR表示 (送信時点灯) |
| | | |

操作バンドの選びかた

本機には、次の3つのバンドがあり、目的に応じて選択できます。

- 無線機バンド (16頁~参照)
⇒無線機専用として使うとき選択します。
- ラジオバンド (38頁~参照)
⇒ラジオ専用として使うとき選択します。
- ラジオバンド+A.B.C (41頁~参照)
⇒ラジオを聞きながら無線機の呼び出しを待つときなどに選択します。
・相手の信号を受信すると一時的に無線機バンドになります。
・(PTT)を押して送信を始めると一時的に無線機バンドになります。

■バンドの選択



- 電源を入れる。
(PWR)を表示が出るまで押す。
電源が入り、表示が出ます。
- (BAND)を押す。
押すたびにバンドと表示が切り替わります。
目的のバンドを選択します。

(参考)
バンド選択機能をOFFに設定すると、バンドの選択はできなくなり、表示されているバンドに固定されます (33頁参照)。

基本的な通話のしかた

相手と同一のチャンネルに合わせ、送信、受信を交互に切り換えながら通話します。まず、2台で通話テストを行なってください。

■準備

1. 電源を入れる。

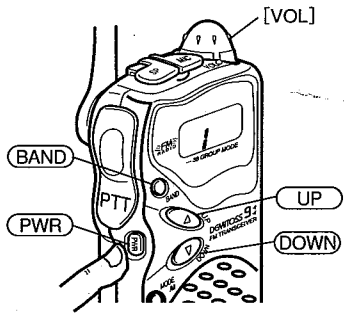
(PWR) を表示が出るまで押す。
電源が入り、表示が出ます。
(電源を切るときは、表示が消えるまで **(PWR)** を押してください。)

2. 無線機バンドを選択する。

(BAND) を押して無線機バンドを選択します。

3. **[VOL]** を右に少し回し、音量を上げておく。

4. **(UP)** か **(DOWN)** でチャンネルを合わせる。



3チャンネル表示の例

チャンネルは次の中から選べます。
UBZ-LG9 : 1~9チャンネル
UBZ-LG11 : 1~11チャンネル

(参考)

(UP) か **(DOWN)** を1秒以上押し続けると、その間チャンネル番号は早送りされます。

(注意)

- グループ通話モードやスクランブル通話モードになっていたら解除してください。(20、22頁参照)
- 設定したチャンネルをだれかが使っている時は、相手と打ち合わせのうえ他のチャンネルへ切り換えてください。

さっそく通話してみよう

(送信)

(PTT) (トークスイッチ) を押しながら話す



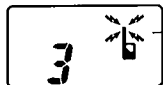
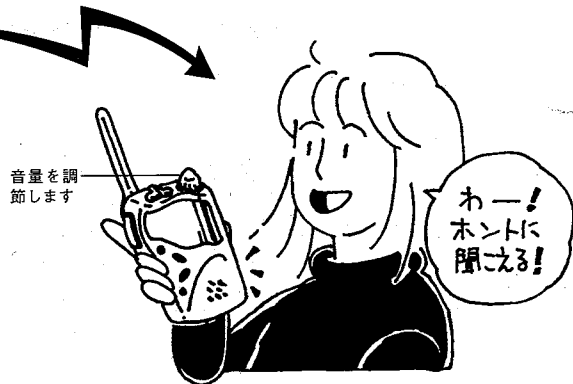
送信すると"ON AIR表示"が点灯します。

(注意)

- (PTT)** を押している間は送信状態、放すと受信状態になります。
- 送信時はマイク部から口を5cm位離してお話してください。
- "BUSY表示"点灯中に、**(PTT)** を押すとビーブ音が鳴り、送信はできません。"BUSY表示"が消えるまでお待ちください。
- キーロックしておくと、通話中に間違ってもキーを押してもチャンネルやモードは変わらず安心です(34頁「キーロックする」参照)。

受信

待っているだけで・・・ほら、
聞こえる、聞こえる！！



信号を受信すると”BUSY表示”が点灯します。

■他の通話モードをお使いになるとき

本機には基本の通話以外に、次の通話モードもあります。必要に応じて設定してください (19頁「通話モードの設定」参照)。

通話のしかたは、基本の通話と同じです。

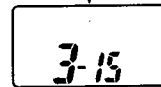
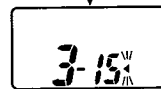
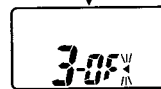
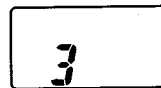
- ・グループ通話モード --- 仲間どうしで通話したいとき (19頁参照)。
- ・スクランブル通話モード --- 他の人に聞かれたくないとき (21頁参照)。

通話モードの設定

通話モードを設定するときは、あらかじめグループでチャンネルを合わせておいてください。

■グループ通話モードの設定

チャンネルとグループ番号が同じ仲間の声だけが聞こえます。



1. **(MODEM)** を押す。
”グループ設定カーソル”が点滅し、”OF”が表示されます。
10秒以内に次の操作をしてください。
2. **(UP)** または **(DOWN)** を押す。
設定: ”1~38”の中から選択します (例15)。
解除: ”OF”を選択します。
3. **(PTT)** か **(MODEM)** を押す。あるいは、そのまま10秒待つ。
グループ番号が設定され、チャンネル設定モードに戻ります。
(注意) **(PTT)** にて設定を終了したときは、そのキーの動作もします。

(参考)

- ・グループ番号は1回設定すると、全チャンネルに共通で使えます。
- ・ここで”OF”表示を選択すると、グループ番号は解除されます。
- ・**(UP)** か **(DOWN)** を1秒以上押し続けると、グループ番号は早送りされます。

(注意)

グループ通話でも、同じチャンネルの電波は全て受信されます。他のグループがそのチャンネルを使っていると、音声は聞こえなくても受信状態になり”BUSY表示”が点灯し、**(PTT)** を押してもプーと鳴り送信できません。

●グループ通話モードを解除するには

3-15

3-15

3-OF

3

1. **(MODE/M)**を押す
”グループ設定カーソル”が点滅します。
10秒以内に次の操作をしてください。
2. **(UP)**または**(DOWN)**を押す
”OF”を表示させます。
3. **(PTT)**か**(MODE/M)**を押す。あるいは、そのまま10秒待つ。
グループ通話モードが解除され、チャンネル設定モードに戻ります。
(注意) **(PTT)**にて設定を終了した時は、そのキーの動作もします。

■スクランブル通話モードの設定


秘話になり、スクランブル通話モードに設定していない人には会話を聞き取れなくします。スクランブルはグループ通話に対して設定されます、あらかじめグループ通話モードに設定しておきます(19頁参照)。

3-15

3-15

3-15

3-15

1. **(MODE/M)**を2回押す。
”スクランブル設定カーソル”が点滅します。
10秒以内に次の操作をしてください。
2. **(UP)**または**(DOWN)**を押す。
を点灯させます。
3. **(PTT)**か**(MODE/M)**を押す。あるいはそのまま10秒待つ。
スクランブルが設定され、チャンネル設定モードに戻ります。

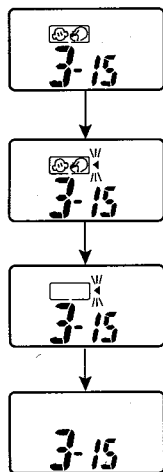
(注意)

- **(PTT)**にて設定を終了した時は、そのキーの動作もします。
- スクランブルが設定されていても、グループ番号を”OF”にすると強制的にスクランブル設定はOFFになります。

(注意)

第三者でもグループ番号とスクランブル通話が一致した場合は傍受できます。高度な機密を要する通話に使うことはお薦めできません。

●スクランブル通話モードを解除するには



1. **MODEM** を2回押す。
”スクランブル設定カーソル”が点滅します。
10秒以内に次の操作をしてください。
2. **UP** または **DOWN** を押す。
MODEM を消します。
3. **PTT** か **MODEM** を押す。あるいはそのまま10秒待つ。
スクランブル通話モードが解除され、チャンネル設定モードに戻ります。
(注意) **PTT** にて設定を終了した時は、そのキーの動作もします。

(注意)

チャンネル、グループ番号、スクランブルの設定は通話する相手と一緒に合わせてください。設定がちがうと通話できませんのでご注意ください。

便利な機能

■オートチャンネルセレクト機能

(オプションのリモコン対応マイク接続時のみ)

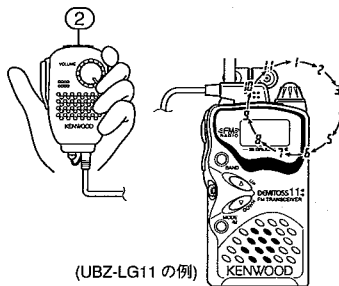
あらかじめ仲間と設定しておいたチャンネルが混んでいて、いざ連絡したいときに話しができない。そんなとき、空いているチャンネルを自動的に捜してくれるのがオートチャンネルセレクトです。仲間を捜す目印にグループ番号を使います。全員、同じグループ番号にして、あらかじめグループ通話モードまたはスクランブル通話モードに設定しておいてください。(19頁参照)

1. 全員オプションマイクの②を1秒以上押す。

図のように”チャンネル表示”が変わり続けます。また、チャンネルセレクト実行中は”ハイフン表示”が消えます。

(参考)

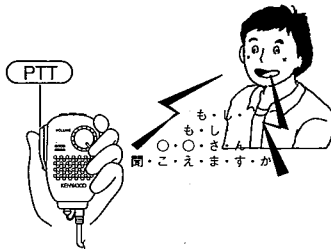
イラストのオプションマイクはSMC-34を使った例です。

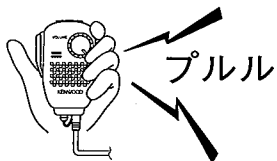


(UBZ-LG11の例)

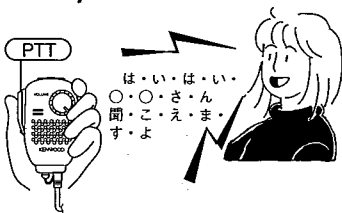
2. 呼び出す側は

PTT を2~3秒押し続ける。自動的に空いているチャンネルを捜し、そのチャンネルで一時的に停止(10秒)します。その後、通常よりゆっくり呼びかけます。**PTT** を放し、相手がそのチャンネルで応答してくれるのを待ちます。この間、チャンネル番号が点灯します。



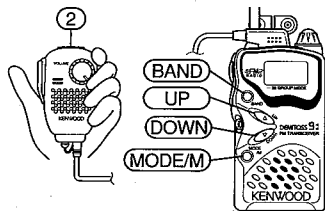


3. 呼び出される側は
”BUSY表示”が点灯し、プルルと鳴って、チャンネル番号が点滅するので、呼び出されているのが分かります。



4. 呼び出されたら
”BUSY表示”が消えるのを待って、(PTT)を押して応答します。応答は10秒以内に行なってください。10秒以上送信、受信が無いと、チャンネルセレクトを再開します。

●オートチャンネルセレクト機能を解除するには
オートチャンネルセレクト中に (UP) (DOWN) (MODE/M) (BAND) のいずれか、または、オプションマイクの (2) を押します。
オートチャンネルセレクト機能は解除され、表示されているチャンネルを受信します。



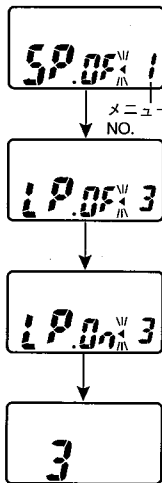
(注意)
一時的に無線機バンドに移った場合でも、オートチャンネルセレクト機能は動作します。

メニューによる機能の設定

本機には6つのメニュー機能があります。各メニュー機能の設定を変更するときは、ディスプレイのメニュー表示により設定状態を確認しながら ON/OFF の操作ができます。(26頁参照)

(全メニュー共通の操作説明)

1. いったん電源を切る。
2. (BAND) を押しながら、(PWR) を押す。
電源がONになり、メニューNO.1が表示されます。
3. (UP) または (DOWN) を押し、変更したい機能のメニューNO.を表示させる。
現在の設定状態が表示されます。
4. (MODE/M) を押し、表示されている機能のON/OFFを切り換える。
5. (PTT) を押す。
ON/OFFが切り換わり、設定前の表示に戻りメニューの設定を終了します。
(PTT) 以外に、(PWR) を押して電源をOFFにしてもメニューの設定は終了します。



(参考) (PTT) を押した場合は、メニュー設定終了のみの動作となります。

(注意)

- ・複数のメニュー機能を変更するときは、操作3～4を繰り返します。
- ・キーロックON時は、メニュー設定機能をONにする事はできません。

メニュー機能一覧表

メニュー機能により設定できる機能は次のとおりです。

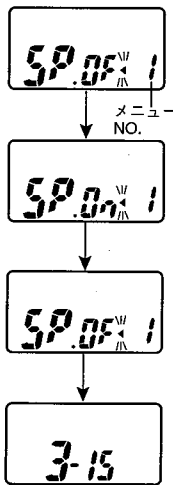
| メニュー No. | ディスプレイ表示 | 機能 | 説明 | 初期設定 |
|----------|---|----------------------|---|------|
| 1 | SP.OFF ^W / _M 1 SP.ON ^W / _M 1 | スピーカー出力のON/OFF | イヤホン接続時、音声をイヤホンから出すか、本体スピーカーから出すかを切り換える機能。 (27頁参照) ・On→本体スピーカー出力 ・OF→イヤホンあるいはスピーカーマイク出力 | OFF |
| 2 | BP.ON ^W / _M 2 BP.OFF ^W / _M 2 | ビープ音のON/OFF | キー操作時のビープ音が鳴るのを止める機能。 (28頁参照) ・On→ビープ音有り ・OF→ビープ音無し | ON |
| 3 | LP.OFF ^W / _M 3 LP.ON ^W / _M 3 | 照明ランプ常時点灯のON/OFF | ディスプレイの照明ランプを常時点灯させる機能。 (29頁参照) ・On→常時点灯 ・OF→自動照明 | OFF |
| 4 | AP.OFF ^W / _M 4 AP.ON ^W / _M 4 | APO(オートパワーオフ)のON/OFF | 無線機の受信待ち受け状態でキー入力無しの状態が2時間、ラジオはなにも操作しない状態が2時間継続すると電源が自動的にOFFになる節電機能。 (30頁参照) ・On→APO有り ・OF→APO無し | OFF |
| 5 | SM.ON ^W / _M 5 SM.OFF ^W / _M 5 | 常時モニターのON/OFF | 無線機バンドにおいて、受信状態を常時モニターする機能。 (32頁参照) ・On→モニター無し ・OF→常時モニター | ON |
| 6 | bd.ON ^W / _M 6 bd.OFF ^W / _M 6 | バンド選択のON/OFF | バンドを自由に選択できるようにしたり、選択したバンド以外は選択出来なくしたりする機能。 (33頁参照) ・On→バンド選択可能 ・OF→バンド固定 | ON |

(注) ディスプレイでは"OFF"を"OF"と表示しています。

■スピーカー出力のON/OFF (メニュー No.1)

イヤホン(あるいはスピーカーマイク)を接続したとき、音声をイヤホン(あるいはスピーカーマイク)から出すか、本体スピーカーから出すかを切り換える機能です。ラジオを本体スピーカーで聞くと、イヤホンを接続したままアンテナとして使う場合などに便利です。初期設定はOFFです。

1. いったん電源を切る。
2. **(BAND)** を押しながら、**(PWR)** を押す。
電源がONになり、メニューNo.1が表示されます。
3. **(MODE/M)** を押し、ON/OFFを切り換える。
ON: 本体スピーカー出力
OFF: イヤホンあるいはスピーカーマイク出力



4. **(PTT)** を押す。
ON/OFFの設定が切り換わり、設定前の表示に戻りメニューの設定を終了します。
(PTT) 以外に、**(PWR)** を押して電源をOFFにしてもメニューの設定は終了します。

(注意)

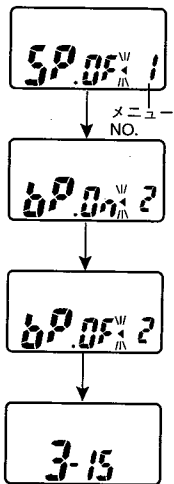
設定をOFF(イヤホンあるいはスピーカーマイク出力)にしているときでも、イヤホンあるいはスピーカーマイクを接続していない場合は、本体スピーカーからの出力となります。

■ビープ音の ON/OFF (メニュー No.2)

キー操作をすると確認のためビープ音が鳴ります。この音が耳ざわりな時は止めることもできます。ただし、キー操作時のビープ音が OFF に設定されている時でも、動作上重要な意味を持つ次のビープ音は出力されます。初期設定は ON です。

- ・バッテリー警告音
- ・送信禁止音
- ・APO 警告音
- ・通信時間制限予告音
- ・コールトーン音

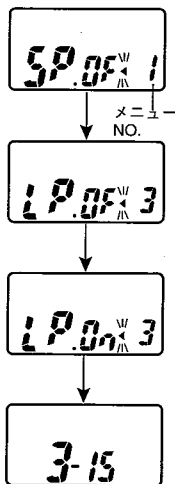
1. いったん電源を切る。
2. **(BAND)** を押しながら、**(PWR)** を押す。
電源が ON になり、メニュー No.1 が表示されます。
3. **(UP)** または **(DOWN)** を押し、メニュー No.2 の表示にする。
現在の設定状態が表示されます。
4. **(MODEM)** を押し、ON/OFF を切り換える。
ON: ビープ音有り
OFF: ビープ音無し
5. **(PTT)** を押す。
ON/OFF が切り換わり、設定前の表示に戻りメニュー設定を終了します。
(PTT) 以外に、**(PWR)** を押して電源を OFF にしてもメニューの設定は終了します。



■照明ランプ常時点灯の ON/OFF (メニュー No.3)

暗い場所で操作するときに表示部がよく見えるように、ディスプレイの照明ランプを常時点灯させる機能です。初期設定は OFF です。なお、通常は照明が自動的に点灯/消灯する自動照明機能になっています。(37 頁参照)

1. いったん電源を切る。
2. **(BAND)** を押しながら、**(PWR)** を押す。
電源が ON になり、メニュー No.1 が表示されます。
3. **(UP)** または **(DOWN)** を押し、メニュー No.3 の表示にする。
現在の設定状態が表示されます。
4. **(MODEM)** を押し、ON/OFF を切り替える。
ON: 常時点灯
OFF: 自動照明
5. **(PTT)** を押す。
ON/OFF が切り換わり、設定前の表示に戻りメニューの設定を終了します。
(PTT) 以外に、**(PWR)** を押して電源を OFF にしてもメニュー設定は終了します。



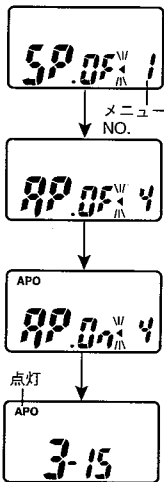
(注意)

- ・設定を常時点灯にしても、APO による電源 OFF 動作時は照明ランプは消灯します。この後電源を ON にすると、照明ランプは常時点灯になります。
- ・照明ランプを常時点灯にすると、電池の消耗が早くなります。

■ APO (オートパワーオフ) の ON/OFF (メニュー No.4)

電源を切り忘れたとき働く節電機能です。無線機バンドでは、1時間59分なにも信号を受信せず、なんらかのキー操作もしなかった時、電源の切り忘れと見なして告知音を鳴らします。ラジオバンドでは、なにも操作しない状態が1時間59分続くと電源の切り忘れと見なして告知音を鳴らします。さらに同じ状態が1分間続くと(計2時間)自動的に電源を切り、APO状態になります。初期設定はOFFです。

1. いつたん電源を切る。
2. (BAND) を押しながら、(PWR) を押す。
電源がONになり、メニューNo.1が表示されます。
3. (UP) または (DOWN) を押し、メニューNo.4の表示にする。
現在の設定状態が表示されます。
4. (MODE/M) を押し、ON/OFF を切り換える。
ON : APO 有り
OFF : APO 無し
5. (PTT) を押す
ON/OFFが切り換わり、設定前の表示に戻りメニューの設定を終了します。(ON時はAPO表示が点灯します。)
(PTT) 以外に、(PWR) を押して電源をOFFにしてもメニュー設定は終了します。



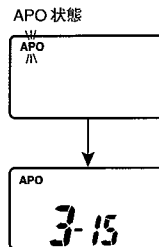
● APO 状態の解除

APO機能が動作して電源がOFFになると、「APO表示」が点滅します(APO状態)。

この状態では全ての機能が停止します。

APO状態を解除するには、(PWR) を押す。

電源がONになり、APO状態が解除されます。



(注意)

- ・オートパワーオフ機能が動作して電源がOFFとなった状態では、(PWR) 以外のキー入力はできなくなります。なお、この状態は電源OFFではありませんので、多少の電流は流れています。
- ・モニター中、オートチャンネルセレクト中はAPOは動作しません。

■常時モニターのON/OFF (メニューNo.5)

信号の状態を常時モニターする機能です。

受信した信号が弱いとき、または常にスケルチを開いておきたいときに使用します。初期設定はONです。

1. いったん電源を切る。
2. **(BAND)** を押しながら、**(PWR)** を押す。
電源がONになり、メニューNo.1が表示されます。
3. **(UP)** または **(DOWN)** を押し、メニューNo.5の表示にする。
現在の設定状態が表示されます。
4. **(MODEM)** を押し、ON/OFF を切り換える。
ON: モニター無し
OFF: 常時モニター
5. **(PTT)** を押す。
ON/OFF が切り換わり、メニューの設定を終了します。
(PTT) 以外に、**(PWR)** を押して電源をOFFにしてもメニュー設定が終了します。

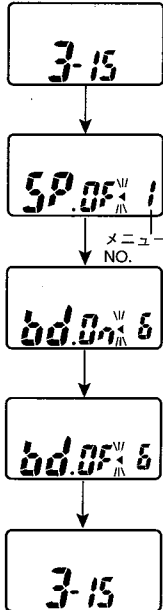
(注意)

- ・常時モニター機能ON時に、電源をOFFしたり、オートチャンネルセレクト機能をONにすると、常時モニター機能はOFFになります。
- ・グループ通話モードのときモニターにすると、そのチャンネルで受信した全ての音声聞こえます。
- ・常時モニター機能ON時に、A.B.C機能にて無線機バンドに移行した場合、ラジオバンドに復帰できなくなります。

■バンド選択のON/OFF (メニューNo.6)

3つのバンドを自由に選択できるようにしたり、選択したバンドだけに固定し、他は選択できなくしたりする機能です。操作をシンプルにしたリ、誤操作防止に便利です。初期設定はONです。

無線機バンドの例



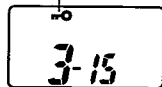
1. 使用するバンドを選択する。(15頁参照)
2. いったん電源を切る。
3. **(BAND)** を押しながら、**(PWR)** を押す。
電源がONになり、メニューNo.1が表示されます。
4. **(UP)** または **(DOWN)** を押し、メニューNo.6の表示にする。
現在の設定状態が表示されます。
5. **(MODEM)** を押し、ON/OFF を切り換える。
ON: バンド選択可能
OFF: バンド固定
6. **(PTT)** を押す。
ON/OFF が切り換わり、設定前の表示に戻りメニューの設定を終了します。
(PTT) 以外に、**(PWR)** を押して電源をOFFにしてもメニュー設定を終了します。

こんな事もできます

■キーロックする（誤操作防止）

通話中はキーロックしておくとし、間違ってキーを押してもチャンネルやFMラジオ周波数、バンド、モードは変わらないので安心です。

キーロック表示



1. いったん電源を切る
2. (MODE/M) を押しながら、(PWR) を押して電源を入れる。

”キーロック表示” が点灯します。

(PWR) (PTT) [VOL] 以外は動作しなくなります。

キーロックを解除するには上記の操作1.2を繰り返すし、”キーロック表示” が消えた状態にします。

■相手をコールトーンで呼び出す

相手を電話の呼出音のような音(コールトーン)で呼び出すことができます。各コールトーンは、操作時に設定されている音色で鳴り、確認することができます。

●コールトーン1で呼び出す時

(PTT) を押したまま、(DOWN) を押す。

押している間コールトーン1が送信されます。

●コールトーン2で呼び出す時

(PTT) を押したまま、(UP) を押す。

押している間コールトーン2が送信されます。

●コールトーン3で呼び出す時

(オプションのリモコン対応マイク接続時のみ)

リモコン対応マイクの③を1回押す。

コールトーン3が3回送信されます。

(注意)

「ラジオバンド」と「ラジオバンド+A.B.C」では、コールトーン3の送信はできません。



■コールトーンの音色を変更する

コールトーン1と2は音色を変更することができます。グループで通信を行う場合、個別にコールトーンを設定すると、呼び出し人を区別することができます。

●コールトーン1の音色を変更する

1. いったん電源を切る。

2. (PTT) と (DOWN) を押しながら、(PWR) を押して電源を入れる。

操作1と2を繰り返すたびに2種類の音色が交互に切り替わり、変更されたコールトーンが鳴ります。

●コールトーン2の音色を変更する

1. いったん電源を切る

2. (PTT) と (UP) を押しながら、(PWR) を押して電源を入れる。

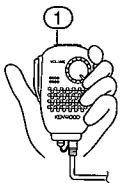
操作1と2を繰り返すたびに2種類の音色が交互に切り替わり、変更されたコールトーンが鳴ります。

(注意)

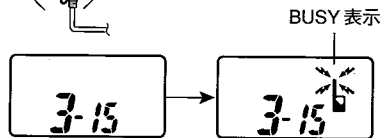
・コールトーン3は、音色を変えることはできません。

・コールトーン1、2の音色を変更した時点では、コールトーン3の送信はしません。

■一時モニター（オプションのリモコン対応マイク接続時のみ）
信号の状態を一時的にモニターする機能です。



1. オプションマイクの①を押す。
押している間だけ”BUSY表示”が点灯し、信号の状態をモニターできます。



(注意)
グループ通話モードのときモニターにすると、そのチャンネルで受信した全ての音声聞こえます。

こんな機能もあります

■表示部の自動照明機能

キー操作時に表示部がよく見えるように、照明が自動的に点灯/消灯する機能です。

電源を入れるとき点灯し、その後キー操作がないと5秒後に消灯します。また、キー操作を行うときも（PTTの操作を除く）、自動的に点灯します。その後キー入力がないと5秒後に消灯します。この機能のON/OFFはできません。

(注意)

照明ランプ常時点灯がONに設定されている時は、本機能の動作にかかわらずランプは常に点灯しています。

■バッテリーセーブ機能

無線機バンドの時に、受信待ち受け状態でキー操作しない状態が約10秒続くと、バッテリーセーブ機能が働き電池の無駄な消耗を防ぐ機能です。BUSY信号が検出されるか、キー操作が行われるとバッテリーセーブ動作は解除されます。この機能のON/OFFはできません。

(注意)

- ・オートチャンネルセレクト中は動作しません。
- ・モニター中、およびラジオバンドとラジオバンド+A.B.Cでは動作しません。

■通話時間終了予告機能

本機の1回の通話時間は、送信、受信を合わせて3分間です。通話終了の30秒前になると表示部の数字が点滅しながらカウントダウンを始めます。10秒前になると”ピッ”と予告音が鳴り、3分たつと送信禁止音と共に通信をストップし、受信待ち受け状態に戻ります。この機能のON/OFFはできません。

(注意)

続けて通話するときは、通信ストップ2秒後に（PTT）を押して相手呼び出してください。

FM ラジオを聞く

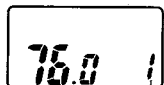
ラジオを聞くときは必ず付属のイヤホンをつまみこみ端子に接続してください。

■ FM ラジオの周波数を登録する

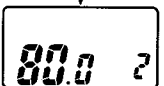
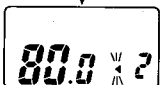
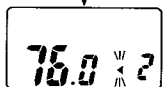
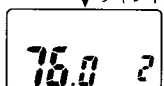
メモリーチャンネルに、FM ラジオ局の周波数を登録します。メモリーチャンネルは1～0の10チャンネル用意されています。

初期設定は次のとおりです。

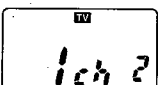
メモリーチャンネルの初期設定番号……………1
各チャンネルの初期設定周波数……………76.0MHz



メモリー
チャンネル



FMラジオ局の例



TV局の例

1. 電源を入れる。
2. 「ラジオバンド」を選択する。
3. **UP** または **DOWN** を押し、登録するメモリーチャンネルを選択する。(表示は2チャンネル選択の例)
4. **MODEM** を1秒以上押す。
メモリー登録モードになり、「ラジオ周波数設定カーソル」が点滅します。
5. **UP** または **DOWN** を押し、登録したいラジオ局の周波数、またはTV局のチャンネルに合わせる。
6. **MODEM** を押す。
選択したメモリーチャンネルに登録され、メモリー登録モードは解除されます。

●続けて登録するときは、操作3～6を繰り返します。

(参考)

オプションマイク(例: SMC-34)の③、②を押した場合も、本体の**UP**、**DOWN**の動作と同じ働きをします。

(注意)

・登録できる周波数とステップは次のとおりです。

76.0～90.0MHz(FM周波数): 100kHzステップで選択。

(TV ch): 1～3chをチャンネルステップで選択。

- ・**UP** または **DOWN** を1秒以上押し続けると周波数は早送りになります。
- ・すでに登録されているメモリーチャンネルに、新たにラジオ局の周波数を登録すると、前のデータはクリアされます。

●周波数登録時の途中解除

ラジオ局の周波数を選択している途中で登録を中止する場合は、次の操作をしてください。

1. **PTT** を押す。または、**PWR** を押して電源をOFFにする。

(注意)

PTT を押した場合、解除のみの動作となります。

●メモリーリセット

メモリーチャンネルに登録したFMラジオの周波数のみを全て消去し、工場出荷時の初期設定状態に戻します。FMラジオの周波数を最初から登録し直したいときなどに使用すると便利です。

1. いったん電源を切る。

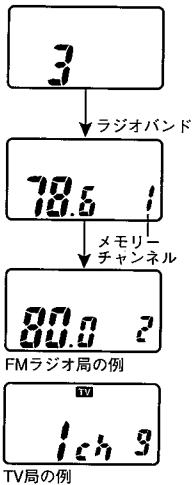
2. **UP** を押しながら **PWR** を押して、電源を入れる。

ビーブ音が鳴り、FMラジオの周波数登録が全て消去され初期設定状態に戻ります。

■ラジオ局を受信する

ラジオバンドでは、イヤホンコードがアンテナになります。ラジオを聞くときは必ず付属のイヤホンをSP端子に接続してください。イヤホンコードは本体に巻いたり、まるめたりしないで、できるだけ長く伸ばしてお使いください。本体スピーカーで聞くとときもイヤホンを接続してください。

1. **[PWR]** を表示が出るまで押す。
電源が入り、電源を切る前の状態が表示されます。(表示は無線機バンドの例)
2. **[BAND]** を押し、「ラジオバンド」を選択する。
3. **[UP]** または **[DOWN]** を押し、メモリーチャンネル番号を切り換えて選局する。
押すたびにメモリーチャンネルにあらかじめ登録してあるラジオ局の周波数(またはTV局のチャンネル番号)が表示されます。
4. **[VOL]** を回し、音量を調節する。



(参考)

オプションマイク(例:SMC-34)の③、②を押しした場合も、本体の**[UP]**、**[DOWN]**の動作と同じ働きをします。

(注意)

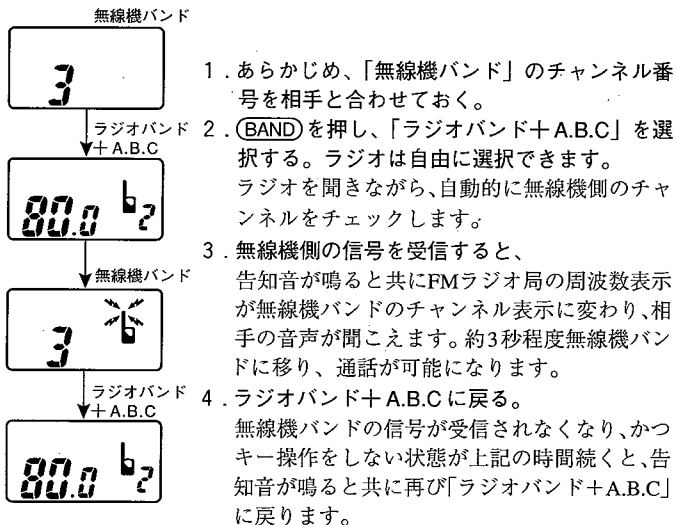
メモリーチャンネルにラジオの周波数を登録する場合は、38頁の「FMラジオの周波数を登録する」を参照してください。

A.B.C (オートバンドチェンジ) 機能

ラジオバンドの動作をしながら、無線機バンドの信号を受信すると自動的に無線機バンドに移ります。また、**[PTT]**を押しても無線機バンドに移ることができます。その後信号が受信されなくなり、かっキー操作をしない状態が続くと再びラジオバンドに戻ります。ラジオを聞きながら、無線機側の受信待ち受けをしたい場合などに便利です。

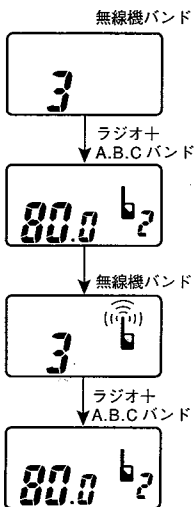
■相手からの呼び出しを待つ

ラジオを聞きながら、無線機側の信号を受信すると、一時的に無線機バンドに移り、相手の音声が入ります。**[PTT]**を押すと通話することができます。



■待ち合わせの相手呼び出す

ラジオを聞きながら、自分から相手を呼び出したい場合は**PTT**を押すことにより、一時的に無線機バンドに移り送信できます。



1. あらかじめ、「無線機バンド」のチャンネル番号を相手と合わせておく。

2. **BAND** を押し、「ラジオバンド+A.B.C」を選択する。ラジオは自由に選択できます。ラジオを聞きながら、自動的に無線機側のチャンネルをチェックします。

3. **PTT** を押すと、告知音は鳴らないで、ラジオ局の周波数表示が無線機バンドのチャンネル表示に変わり、相手に送信できます。約5秒程度無線機バンドに移り、通話が可能になります。

4. ラジオバンド+A.B.Cに戻る。無線機バンドの信号が受信されなくなり、かつキー操作をしない状態が上記の時間続くと、告知音が鳴ると共に再び「ラジオバンド+A.B.C」に戻ります。

(注意)

- 無線機バンドでグループ通話モードに設定されていると、グループ番号の一致しない信号に対してはA.B.C動作は働きません。
- A.B.C機能は「ラジオバンド+A.B.C」からメニュー設定モードに入ったとき、FMラジオ周波数の登録モード中においては動作しません。
- A.B.C機能により、無線機バンドの表示に切り変わった後**UP**または**DOWN**により、チャンネル番号及びグループ番号を変更した場合、そのチャンネル番号、グループ番号がA.B.C機能の対象となります。
- 常時モニター機能ON時に、A.B.C機能にて無線機バンドに移行した場合、ラジオバンドに復帰できなくなります。

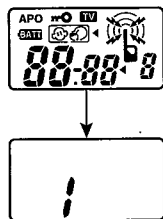
故障かなと思ったら

修理を依頼される前に次頁の「症状による確認項目」を点検してください。それでも回復しない場合や、動作がおかしい場合、キーを押しても反応しない場合は、リセットしてみてください。

■オールリセット

設定してある内容は全て消去され、工場出荷時の初期設定状態に戻ります。

- いったん電源を切る。
- UP** と **DOWN** を押しながら、**PWR** を押し、電源を入れる。全ての表示とランプが点灯します。
- 押ししていたキーをはなす。ビーブ音が鳴り、初期設定状態に戻り、無線機バンドのチャンネル1が表示されます。



■症状による確認項目

| 症状 | 原因 | 処置(参照頁) |
|-------------------------------------|--|--|
| 電源が入らない。 | a.電池の入れ方が違う。 b.電池が切れている。 | a.十一を正しく入れる。(10頁) b.新しい電池に交換する。(10頁) |
| 受信できない。 音量つまみを回しても音が出ない。 | a. (PTT) が押されて送信中になっている。 b. グループ番号がちがう。 | a. (PTT) をはなす。(17頁) b. グループ番号を相手と同じにする。(19頁) |
| 相手と通話できない。 | a. チャンネルかグループ番号が違う。 b. 相手との距離が離れすぎている。 c. 通話モードが違っている。 | a. チャンネル、グループ番号を相手と同じに合わせる。(16、19頁) b. 9頁の通話のできる距離を目安に通話する。 c. 相手と同じ通話モードにする。(19頁) |
| どのキーを押しても表示が変化しない。 | キーロックになっている。 | キーロックを解除する。(34頁) |
| 照明が消えない。 | 照明の常時点灯がONになっている。 | メニューNO.3「照明ランプ常時点灯」の設定をOFFに切り換える。(29頁) |
| 電池がすぐ無くなる。 | 照明の常時点灯をよく使う。 | 常時点灯は必要な時だけ使う。(29頁) |
| 聞き取れない音が入ったり、何も聞こえないのに、BUSY表示が点灯する。 | a. 同じチャンネルで別のグループ番号を使っているグループがいる。 b. スクランブル通話しているグループがいる。 | a. そのチャンネルが空かないときはチャンネルを変更する。 b. オートチャンネルセレクトで他の空いているチャンネルを捜す。(23頁) |
| チャンネルセレクトを止められない。 | キーロックになっている。 | キーロックを解除する。(34頁) |
| 音量を大きくするとブーという音がする。表示がすぐ消える。 | 電池が消耗している。 | 新しい電池に交換する。(10頁) |
| FMラジオが受信できない。 | a. ラジオ局の周波数をメモリーチャンネルに登録してない。 b. 登録してある周波数がちがう。 c. イヤホンを接続していない。 | a. ラジオ局の周波数をメモリーチャンネルに登録する。(38頁) b. 新聞のラジオ欄等を参考に登録をやり直す。(38頁) c. SP端子にイヤホンを接続する。(13、40頁) |
| 送信ができない。 | BUSY表示が点灯している。 | チャンネルを変更するか、BUSY表示が消えるのを待つ。(18頁) |

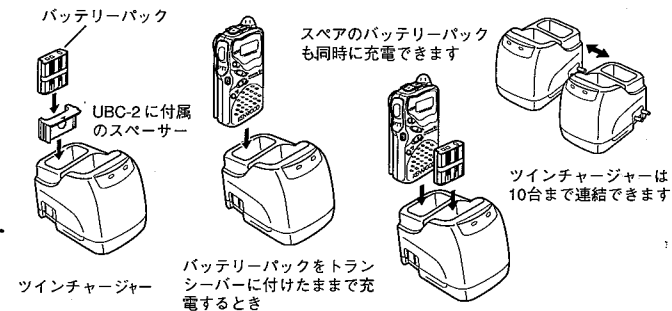
オプション

本機には、次のようなオプション(別売)が用意されています。

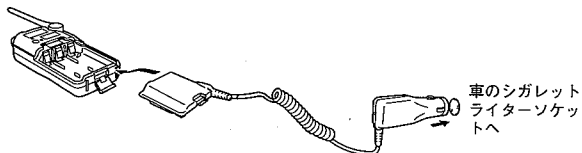
- ・EMC-3
イヤホン付きクリップマイクロホン
- ・HMC-3
VOX、PTT付きヘッドセット
- ・HMC-4
リモコン対応VOX/PTT/TOT 切換式ヘッドセット
- ・HS-9
ブチホン型イヤホン
- ・SMC-32
スピーカーマイクロホン
- ・SMC-34
リモコン対応ポリウム付きスピーカーマイクロホン
- ・UBC-2
ツインチャージャー
- ・UCA-4
カー電源アダプター
- ・UPB-1
バッテリーパック (3.6V 700mA)
- ・USC-3
キャリングケース

■オプションの使い方

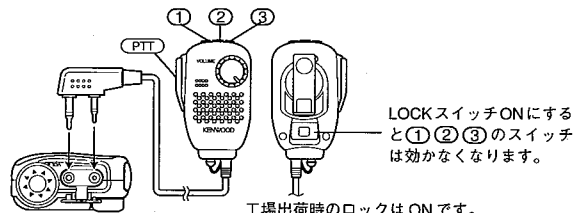
- UBC-2 (ツインチャージャー 充電時間: 約8時間)
- UPB-1 (バッテリーパック 3.6V 700mA)



- UCA-4 (カー電源アダプター)



- SMC-34 (リモコン対応ボリューム付きスピーカーマイクロホン)



(注意)

SP/MIC端子に、スピーカーマイクロホンなどを接続したときは防滴にはなりません。

定格

| | |
|-------------------------|---|
| 送受信周波数 (FMラジオ部は受信のみ) | 422.200~422.300MHz (UBZ-LG9) 422.050~422.175MHz (UBZ-LG11) 12.5kHzステップ9CH (UBZ-LG9) 11CH (UBZ-LG11) 76.0~108MHz (FMラジオ部) 但し、90~108MHzはテレビ音声周波数のみ (1ch, 2ch, 3ch) |
| 電波型式 | F3E |
| 周波数安定度 | ±4ppm (-10℃~+50℃) |
| 消費電流 | 送信時70mA以下 受信定格出力時120mA以下 受信待ち受け時50mA以下 セーブ時(平均)約10mA ラジオ受信時(90mW出力時)120mA以下 |
| 性能保証温度範囲 | -10℃~50℃ |
| 電源電圧 | 定格電圧DC 4.5V |
| 送信出力 | 10mW |
| 低周波出力 | 90mW以上(定格電圧、8Ω負荷、10%歪時) |
| 受信感度 | -8dBμ以下(12dB SINAD) |
| 寸法mm(突起物含まず) | 幅(56)×高さ(101.3)×奥行き(26) |
| 質量(重量) | 約180g(単3アルカリ電池3本を含む) |